



KESENNUMA  
じもとまるまるゼミ

# 気仙沼の教育

ニュースまとめ

# まるゼミ SEASON REPORT

vol.

19

2021.

10-12

まるゼミ  
とは？

一般社団法人まるオフィスによる気仙沼の教育パートナー事業、じもとまるまるゼミ。次の時代に求められる学びの探究と、地域と学校の協働の仕組みづくりを気仙沼からはじめています。



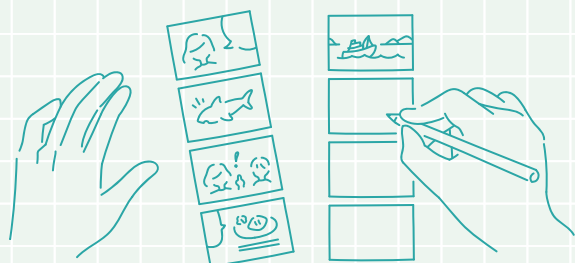
動画レポート配信中！



column

## 2022年の新企画「問いストーリー」はじめます

2022年、まるオフィスは新たな企画に挑戦します。気仙沼の中高生が取り組む探究学習の事例をマンガにします！ぱちぱちぱち。「探究学習って何？」…探究学習とは、先生から与えられる問いではなく、学生が自ら問いを立て、それに対する解や新たな問いを導く学習です。「んー？よく分からない」…身の回りの関心ごとや地域課題をテーマにプロジェクトを立ち上げるプロジェクト型学習もその一環なんです。「んー、もっと分からない」…例えばですね、〇〇という高校生がおりまして…「それはおもしろい学びだね！」そう！結局、具体的な中高生の事例がないと、よく伝わらないのが「探究学習」なんです！私の説明力不足は棚に上げて「だったら最初から学生の事例を4コマ漫画的にまとめてイラストで伝えてしまえ」という発想で生まれたメディア企画です。



私はもうかれこれ5年以上気仙沼の高校生のプロジェクトを応援してきました。2年前からは中学校のコーディネーターとして探究学習をサポート。気仙沼市内の高校4校、中学11校には着実に広がっており、おかげさまで一部の市外の関係者からは「気仙沼は探究学習盛り上がってるね～」と驚かれるくらいになりました。でも、肝心の気仙沼の市民、教育以外の関係者の認知はまだまだ限定的です。探究学習に欠かせないのが地域の協力なんです。地域の大人たちがフィー

ルドワークの受け入れ先であり、中高生のプロジェクトの協力者であるからです。地域に触れることでリアリティのある(オーセンティックな)学びが深まります。探究学習の価値が地域に認知され、中高生の挑戦やその失敗に寛容な大人が増えることは、気仙沼の「学びの土壌」が肥えることに直結します。

昨今盛り上がりを見せる中高生の探究学習を見える化して地域に還元するメディア、その名は「中高生の問いストーリー」。地域でアクションを起こし、出会いが起きて、問いが深まっていく物語(ストーリー)を、10コマ前後で描きます。一人ひとり一話完結型で、今年は12作品を3月に発表、順次新設サイトで公開する予定です。毎年少しずつ貯まっていくと、探究学習アーカイブとして学生や教員にとっての事例集にもなります。

昨年は市教育委員会と若手経営者らと「教育未来創造チーム」という官民チームを結成、今年はいよいよそのチームで中高生を支える市の仕組みづくりに着手します。「教育未来創造チーム」と「問いストーリー」どちらも乞うご期待です。



PICK UP

気になる記事はWEBで詳細をチェック! スマホ/タブレットでQRコード読み込



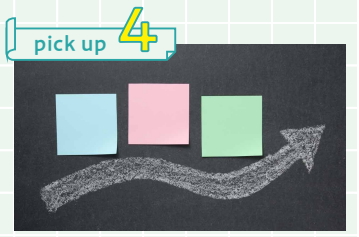
中学生の  
職場体験を  
アップデートする



【気仙沼の高校生  
マイプロアワード2021】  
チームみふもが  
市長賞&共感賞  
W受賞



【中学生コラム】  
気仙沼の先生に  
提案します! 八瀬で  
探究学習



先生だって答えは  
分からない  
「先生の探究ラボ」  
レポート #6



おすすめ//



【裏側こんな感じ】高校生に意気込み聞いてみました | 気仙沼の高校生 MY PROJECT AWARD 2021 直前スペシャル

マンスリーサポーター

まるクルー募集中!

活動へのご支援を毎月定額寄付にて受け付け中!

(1口 1,000円 ~ 自動引落)

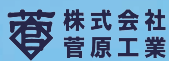
[maru-zemi.com/support/](http://maru-zemi.com/support/)



【高校生 AWARD 終了】スタッフ緊急反省会 | 三木谷曲線? 協働性は必要? 研究との違い?



移住の決め手を聞いてみた①  
【中学生が企画/撮影/編集】



このまちをつくる



株式会社 生島企画室

1850年創業 漁民の利益につながる、よい漁具を



熊栄産業株式会社  
松島網

唐桑町  
佐藤歯科医院

有限会社  
根口商店



唐桑御殿  
つなかん



第十八 丸

まるゼミシーズンレポート vol.19

発行日: 2022年2月

発行元: 一般社団法人まるオフィス

お問合せ: [info@maru-office.com](mailto:info@maru-office.com)

(担当: 加藤拓馬)